

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 基本的な言葉の特徴や使い方を理解し、文章の中で適切な言葉を選択・使用することができる。
- 目的や場面に応じて必要な材料や情報を選択し、自分の考えや結論を導くために考えをまとめることができる。
- 複数の情報を整理して関連付けたり、情報同士の関係を捉えたりすることに課題がある。

【数 学】

- 文字を含む式の計算力、表・グラフ・図から必要な情報を読み取る力が身に付いている。
- 思考過程を説明したり証明したりする問題に課題がある。

【英 語】

- 対話から必要な情報を聞き取ったり、自分の考えや気持ちをまとまりのある文で書いたりすることができる。
- 文章を読み、状況を判断して、要点や必要な情報を読み取ることに課題がある。

2 生徒質問紙に関する結果の概要

- クラスでの話し合い活動やグループワークが根付いており、集団で高め合える基盤が整っている。
- 他者を思いやり、社会や集団に貢献したいという高い倫理観が身についている。
- 不安や悩みがある際に「先生や大人に相談できる」と回答している生徒の割合が低い。

3 評価と今後の取組

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・自分の考えを積極的に書き出し、周囲と話し合う活動の充実
- ・定着が不十分な内容の重点指導や ICT を活用した授業改善
- ・相手や目的を意識し、考えを明確にして書く活動の充実

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・複数の情報を関連付けて整理し、自分の考えをもつ学習活動の充実
- ・高等学校入学者選抜等を踏まえた問題設定や ICT を活用した授業改善の継続
- ・目的・社会的な活用場面を意識した、自分の考えをまとめる活動の充実

(2) 生徒質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・「まちづくりプロジェクト」を通じた、他者理解や自己開示の機会の設定
- ・「前中 Community School プロジェクト」による、地域と関わる活動の充実

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・「問いの発見」を意識したグループワークや ICT を活用した考えの共有・整理
- ・学校・家庭・地域との連携による、情報機器の適切な利用に向けた取組の充実